

《履修上の留意事項》遠隔授業のみで実施

《担当者名》○中川賀嗣 下村敦司 今井智子 太田亨 田村至 榊原健一 橋本竜作 福田真二 黒崎芳子 小林健史
前田秀彦 柳田早織 飯泉智子 葛西聡子

【概 要】

言語聴覚学に関係する各領域（発声・発語障害、言語発達障害、摂食・嚥下障害障害、失語・高次脳機能障害、聴覚障害など）での最先端の研究動向と成果を学ぶ。

【学習目標】

技術が日々進歩している現代の医療現場で他の専門職種と連携し協業するために、言語聴覚療法の高度な専門知識と技術について説明できる。

1. 発声・発語障害に関わる言語聴覚療法の最先端の研究動向と成果を説明できる。
2. 言語発達障害に関わる言語聴覚療法の最先端の研究動向と成果を説明できる。
3. 摂食・嚥下障害障害に関わる言語聴覚療法の最先端の研究動向と成果を説明できる。
4. 失語・高次脳機能障害に関わる言語聴覚療法の最先端の研究動向と成果を説明できる。
5. 聴覚障害に関わる言語聴覚療法の最先端の研究動向と成果を説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1 (2	オリエンテーション 高次脳機能障害	本科目の概要や評価方法などについて説明をする。 高次脳機能障害に関する近年の研究の動向と成果を紹介する。	中川賀嗣
3	小児の構音（音韻）障害	小児の構音（音韻）発達およびその障害に関する近年の研究の動向と成果を紹介する。	今井智子
4	遺伝学	遺伝学に関する近年の研究の動向と成果を紹介する。	太田亨
5	言語発達障害の臨床	言語発達障害児の支援に関する近年の研究の動向と成果を紹介する。	小林健史
6	声帯振動と声質	喉頭調節、声帯振動の物理と声質との関係について、病的音声、健常者の音声に関する現在得られている成果と国際的動向について解説する。	榊原健一
7	失語・高次脳機能障害 - 社会活動と脳 -	社会活動と脳の関係に関する近年の研究の動向と成果を紹介する。	黒崎芳子
8	聴覚障害	人工内耳に関する近年の研究の動向と成果を紹介する。	葛西聡子
9	他覚的聴力検査法	聴性定常反応（ASSR）に関する近年の研究の動向と成果を紹介する。	前田秀彦
10	高次脳機能障害 -記憶障害、注意障害-	失語・高次脳機能障害に関する近年の研究の動向と成果を紹介する。	田村至
11	摂食嚥下リハビリテーション	摂食嚥下障害とそのリハビリテーションに関する近年の研究の動向と成果を紹介する。	飯泉智子
12	臨床発達心理学	神経発達障害に関する近年の研究の動向と成果を紹介する。	橋本竜作
13	言語の生物学的基盤	特異的言語障害に関する近年の学際的な研究の動向と成果を紹介する。	福田真二
14	言語聴覚療法における再生医療	言語聴覚療法における再生医療の研究の動向と成果を紹介する。	下村敦司
15	音声障害	音声障害の評価と治療に関する近年の研究の動向と成果を紹介する。	柳田早織

【評価方法】

レポート 100%

レポートで多かった誤り、特徴的な問題点について問い合わせがあった際には解説を行う。

【備 考】

教科書 : 使用しない。

その他 : 1. 一歩進んだ言語聴覚学を学びたいモチベーションの高い学生や、大学院進学を考えている学生にお勧めの科目である。
2. 開講日時が一部変則になる。詳細については、掲示等で確認すること。

【学習の準備】

各領域の専門の教員がオムニバス形式で講義をするので、それぞれの担当教員の指示に従って予習（80分）と復習（80分）行うこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）医学の進歩によって救命ができるようになり、また平均余命も伸びてきました。これからは、健康を損なっている人、病気やけがで心身に障がいを持っている人たちが地域でその人らしい生活を営めるように、保健・医療・福祉の各分野で活躍する専門職種が連携しあって、地域全体で支援していくことが重要です。その視点を持って言語聴覚療法の専門的な知識と技術を適切に提供できる能力を身につけます。

【実務経験】

今井智子、田村至、黒崎芳子、小林健史、前田秀彦、柳田早織、飯泉智子、葛西聡子(言語聴覚士)

中川賀嗣(医師)

橋本竜作(公認心理師)

【実務経験を活かした教育内容】

今井智子、田村至、中川賀嗣、橋本竜作、黒崎芳子、小林健史、前田秀彦、柳田早織、飯泉智子、葛西聡子：医療機関での臨床経験を活かし、言語聴覚障害学の各領域（失語・高次脳機能障害、言語発達障害、聴覚障害、発声発語障害、摂食嚥下障害など）に関する最新の知見や各障害の評価・リハビリテーションについて講義を行う。